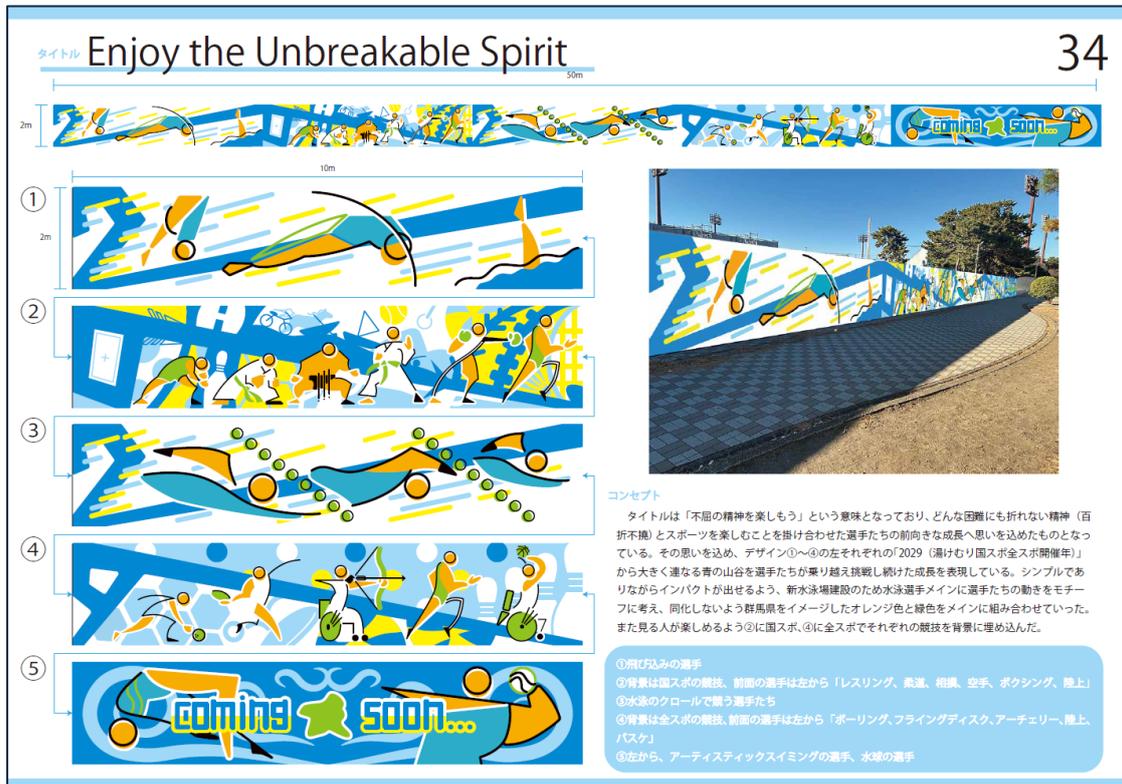


受賞作品一覧

【最優秀賞】(加藤雄大・棚田悠介／東京藝術大学大学院)



【優秀賞】(田部井仁菜／桐生大学短期大学部)



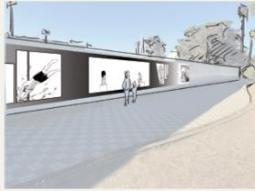
【入選】(楠美運/千葉大学)

未来をめぐる、50メートル

登録番号：13



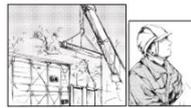
仮面を一枚の大きな壁面ではなく、「歩いて読む漫画」として構成しました。50メートルという距離を物陰の時間軸に見立て、観客が歩く行為そのものをページをめくる体験へと変換しています。コマが流れる構成にすることで、自然と「次を見たい」という感覚が生まれ、無意識のうちに来場へと視線が導かれています。仮面という制限された空間を、期待を膨らませる物語の装置へと変換することを目指しました。



描かれている動物「上げる」「伸ばす」「削む」「踏み出す」は、アスリートだけでなく、建設に携わる人々、そしてこの場所を訪れる私たち自身に当てはまる行為です。鉄骨を上げることと橋を上げること、工程を削むことと記録を削むことで、「強靱と運動」は競技の舞台に現れたものではなく、日々の営みの中にも存在することを示しています。この水泳場に関わるすべての人を、同じ物語の登場人物として描きました。



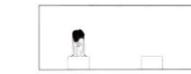
漫画に登場する吹き出しや文庫はあえて添えていません。建設途中の仮面と同じように、この作品もまだ「未完成」です。その余白(真ん中のコマ)は、未来へ向かう一歩を踏み出す人を受け止めるための空間です。施設の完成を待つ時間さえも挑戦の過程であると捉え、白黒のコントラストで「これから色づいていく未来」を表現しました。未完成だからこそ生まれる想像の余白を、未来へのワクワク感へと繋げる架け橋となることを目指しています。



上げる
鉄骨を上げる/スクリュー上げる
削む
橋を削ぐ/足跡を削ぐ
伸ばす
工事を伸ばす/仮設の
踏み出す
一歩を踏み出す
目の前の、建設現場と周囲の環境を意味を帯びながら、壁を穿つ物語を構築した。



日々の営みのなかで歩いてくることが、この仮面が持つ意味のなかにあることを、それだけが成立した一歩の仮面として成立させるように、物語を紡ぎ出す。建設現場と周囲の環境を意味を帯びながら、壁を穿つ物語を構築した。同時に観客の入口に設けられた仮面を、想像の一歩を踏み出す、内面と想像の架け橋となるように制作。



真ん中のコマはアスリートと建設、両方にアスリート、もう片方は建設の人。真ん中は、観客自身に当てはまることを示す。観客自身に「上げる」「伸ばす」「削む」「踏み出す」という行為を、内面と想像の架け橋となるように制作。



【入選】(内田夏々子/武蔵野美術大学)

25

YUKEMURI

DIVING

WATER POLO

SWIMMING

ARTISTIC SWIMMING

SWIM BEFORE SWIMMING

—新水泳場へ向かう、はじまりの風景—

まだ水は張られていない。けれど、ここにはもう流れがある。水面やレーンのような線で描かれた文字は、「泳ぐこと、遊ぶこと、憩い合うこと」など水の中で生まれる無数の動きを、静かな仮面の上に浮かび上がらせる。建設中という「途中の時間」を、完成前のわくわくが満ちていく時間へ。公園を歩く人が、ふと立ち止まり、未来の水面を思い描く。この仮面は、新水泳場へ向かう最初の助走である。日々現場で働く人々にとっても、完成へ向かう「進歩の背景」となる。

歩く → 見る・読む → 想像する

ARTISTIC SWIMMING SWIMMING WATER POLO DIVING YUKEMURI

Illustration scale 1/200

【入選】(齊藤桃菜／桐生大学短期大学部)

title ゆけむりと駆ける群馬の未来 敷島公園新水泳場仮囲いデザイン 43




concept
群馬の温泉から立ちのぼる湯けむりを起点に、アスリートたちとともに「ゆけむり」が会場へ向かって流れていくイメージ。競技に挑むアスリートたちを、個性豊かなゆけむりたちが寄り添いながら、共に会場完成に向けて力強く駆け抜けていきます。

point
表情豊かなゆけむりたちは、大会へのワクワク感を伝えるだけでなく、幅広い世代に親しみを感じてもらえる存在としてデザインしています。また、シルエットで表したアスリートたちから、どんな競技が行われるのか興味を持っていただくと同時に、カラフルで変化のある色使いによって長い仮囲いでも単調にならず、思わず一見して見たくなるような楽しいビジュアルに仕上げました。

【入選】(高橋来武・竹野綾／東京理科大学大学院・東京藝術大学)

織景 Shakkei



一人ひとりの中に存在するエネルギー。
継続への情熱、意欲、熱意。
継続に挑む人々の思い、公園で過ごす人々の気配。
そして、この土地がもともと備えている場所。

それぞれは色彩、異なる方向を向いたエネルギーである。
しかし交流、混交が「水泳場」という舞台において、
それらひとつの場を共有し、大きな物語を紡ぐ。
本舞台は、その異なるエネルギーが絡み合うことで変わり、
置き合えないが関係性を築いていく「織り」という行為と繋がる。

一本一本のエネルギーを細い「糸」に見立てる。
糸は偶然にも、まきしは意図的に交差し、絡まりながら、織り込まれていく。
継続もまた、その織りのなかに流れるひとつの糸である。
時間とともに形を築き、人々の土地とつながりながら、新たなエネルギーを織り込んでいく。

仮囲いは境界ではない。
いまと未来を結び、三年後の賑わいや高揚感を拡張していく存在である。
人々、土地と人、現在と未来が三年後のなかで織り込まれる。
この織り込みのなかで物語を紡いでいく。
その織物は、この土地に様々な風景を立ち上げる。
それは、「織景」である。

3年30



DESIGN
画面下部に重心を置いた織物の色彩構成は、群馬の大地に響く地熱のエネルギーを表している。織物文化に象徴されるその織は、目には見えないが織りに存在し、この土地を内側から支え続けている隠微的な力である。本舞台では、その不可視のエネルギーを織物の土台として築いた。
上層を織り出す糸の動きは、人の内側に存在する期待や希望、集中といったエネルギーを抽象化したものである。水泳における身体の動きと水の流れる様子から着想を得ており、泳者のストロークによって生まれる水流の推進力、波紋の広がりも、方向性と動きを持つラインとして再現している。異なるエネルギーが交差し、交わりながら物語を生み出す織物は、「織り」の関係を表現したものであり、量り方によって織りが立ち上がる織物の成長を表現している。

歩行者の移動に伴い、織の動きや形態の変化は変化する。静止した織物に織りが生じ、それは織物に織られた「糸」の織物ではなく、人が織る織り、織物に織り込まれることでも織り込まれる織物である。人の存在そのものが織物であり、織のエネルギーを受け取り織る。

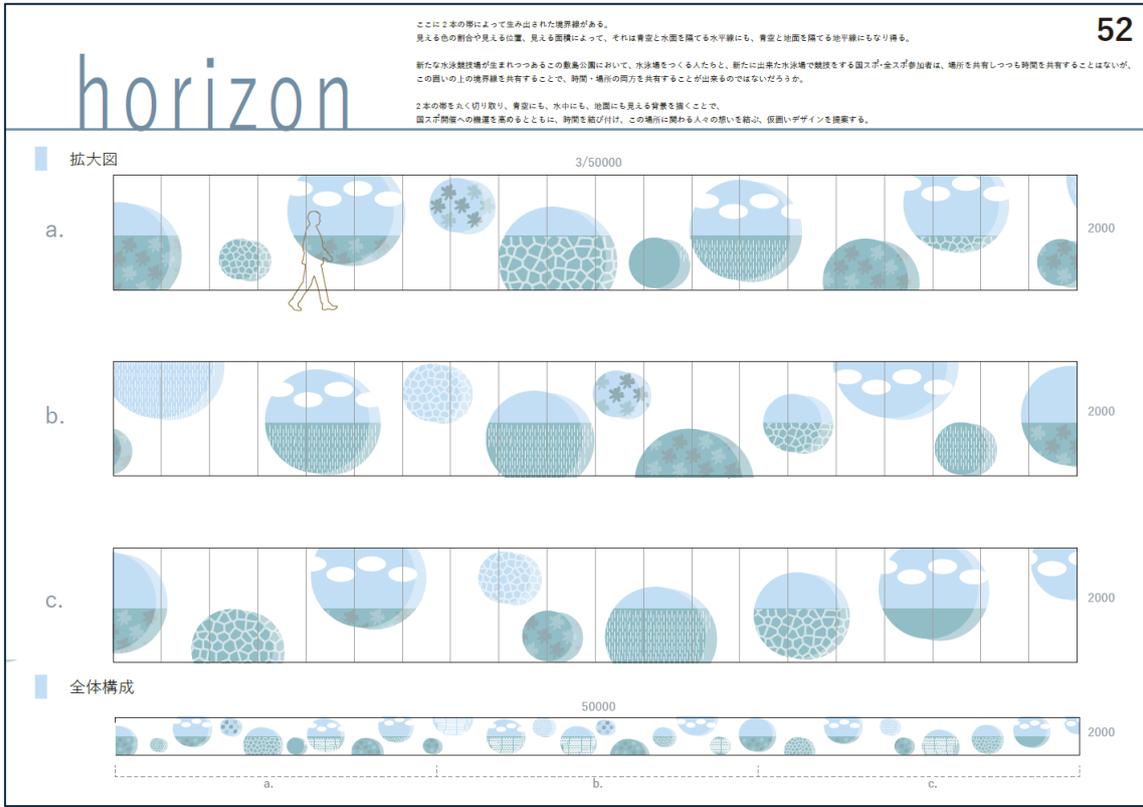


歩く人は、自らの思いや記憶をこの織物に重ねる。それを見つめる織物は、また新たな織物を見出す。見る人によって織物を受けるその織り方は、わがてが織りを生み、世代を超えた共通の物語となる。

足場が立ち、織物もまたエネルギーを立ち上げる。織り出す学生の情、この土地が持つ力、そして対峙と立ち上がる織物のエネルギーが織り込み、織物として立ち上がる。それは、三年後の賑わいも、この織りに織り込まれる。

さまざまな身体性のスケールから織られた織物は、時間をかけて織られたい大きな織物となり、この土地の力と動きが織り込まれる。3年という期間の中で、この織物は、まきしひとつの織物となり、ここに身体性が織り込まれる織物の織り込みとして織り込まれる。

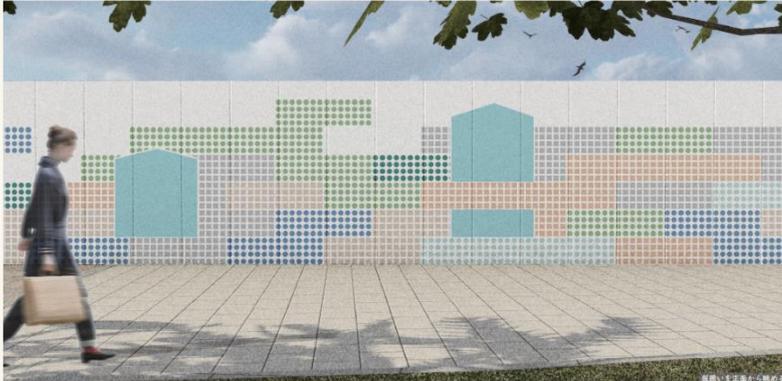
【入選】(田中佑妃乃／島根大学大学院)



【入選】(下田育生／多摩美術大学)



【入選】(北原航太／前橋工科大学大学院)



102

景色の結い目 - 前橋に織り込まれる、未来の風景 -

■ 調査背景
前橋の地域性は、山や森、川といった自然の環境、そして人々の営みや工業の音響など、さまざまな文化の単位が折り重なることで形成されてきたと捉える。その歴史や文化の塊の種子を、レンガによる組織造りの構成として表現した。積み重なるレンガ(前橋の歴史や文化)は、都市の記憶を編み込むヨコの糸となる。
一方で、水泳競技において、競技者は水中に沈み、息継ぎの瞬間のみ水面へと姿を現しながら前進する。その見え隠れする身体のリズムと前進のイメージをタテの糸として全体のイメージに重ねている。
前橋が持つ繊維工業によって発展した歴史を踏まえ、これまで積み重ねられてきた文化と、これから紡がれていく時間をタテ・ヨコの糸と捉える。新たに生まれる景色が織物のように強く結びつき、暖れやかな都市景観を編み上げることを願う。

■ 提案
積み上げられてきた前橋の歴史と文化を、レンガによる組織造りとして表現する。レンガに見立てた一つ一つの単位は、それぞれ前橋の特色をモチーフとしている。

■ タテ
水を掻き、前進する水泳競技者の軌跡を、抽象化した足形として表現する。

■ ヨコ
1. 山や森などの自然環境、豊かな緑/まちなみを流れる水の流れ/大気の色がり
2. 現在を支える工業/近代を築いた工業/歴史の痕跡

■ タテ
1. 軌跡

■ ヨコ
5. 現在を支える工業 1050×300mm
6. 水を掻き進む水泳競技者の軌跡を、抽象化した足形として表現する。 1950×300mm
7. 歴史の痕跡 1050×300mm

1. 山や森などの自然環境、豊かな緑/まちなみを流れる水の流れ/大気の色がり
2. 現在を支える工業/近代を築いた工業/歴史の痕跡

1. 軌跡

5. 現在を支える工業 1050×300mm
6. 水を掻き進む水泳競技者の軌跡を、抽象化した足形として表現する。 1950×300mm
7. 歴史の痕跡 1050×300mm

